

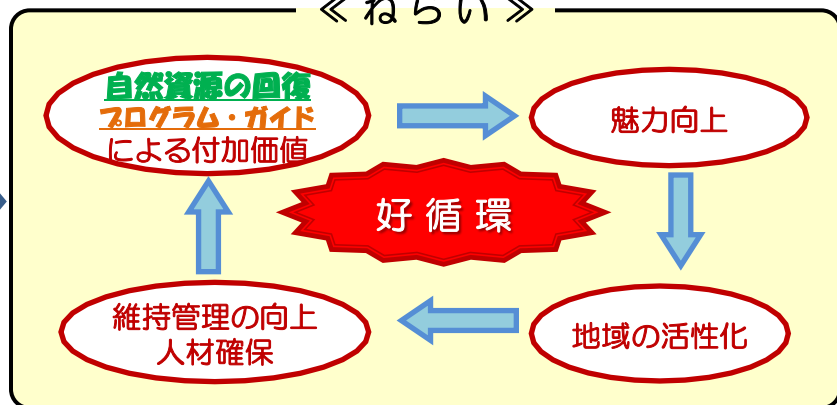
生物多様性の保全・活用による元気な地域づくり事業

～ 自然資源の劣化により疲弊した地域を元気に！ ～

《 現状・課題 》



《 ねらい 》



プログラム・人材づくり



- ①人材育成研修
プログラムづくり
地域コーディネーターの活用



それぞれが連携して
効果を発揮

基盤づくり
(劣化した自然資源の回復等)



- ③山岳環境の保全 (山岳トイレ)
- ④エコツーリズムセンター等の整備



経済効果^(※)、雇用拡大により **地域経済が活性化**

※屋久島でのエコツアーガイドの年間収入は3.6～4.6億円 (これを全国の国立公園で実施すると、年間3,300～4,200億円！)

① エコツーリズムを通じた地域活性化事業

～魅力あるプログラムづくりとそれを支えるガイドの育成～

魅力的なエコツアーの不足

外国人旅行者の増加

質の高いガイドの不足

地域コーディネーター活用事業

地域による魅力あるプログラムづくりを国として支援

- ・ 全国で **10地域**
- ・ 国が地域協議会に対し事業費の **2分の1** を助成
- ・ 交付額 1地域当たり **1千1百万円以内**

外国人旅行者のためのプログラム整備事業

モデルプログラムづくりを野生鳥獣の生息地など **7箇所**程度において、国が直接実施。

エコツーリズムガイド育成事業

- ・ 国が、研修生の募集、教材の作成、講師の派遣等にかかる経費を負担
- ・ **30ヶ所**程度の民間施設を活用し、年間 **150人**程度の研修生を受入

地域コーディネーターによるプログラムづくり

資源調査

計画、ルールづくり

エコツアーの企画

ネットワーク構築 など

モデル的なプログラムの作成
(バードウォッチング、ナイトハイク等)

セルフガイド用パンフレット等の作成

実地研修 オンザジョブトレーニング

集合研修 ワークショップ

巡回指導 専門家による直接指導

通信研修 マイペース学習

モニターツアーの実施



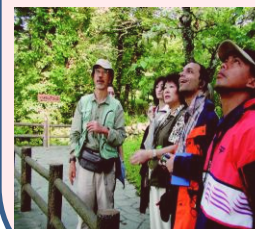
エコツアープログラム



資源調査



外国人旅行者



ガイドンス



室内研修

② 生物多様性の保全と活用による国立公園活性化事業費

★目的 国立公園において、高度な専門技術を持つ技術者の参画と、住民の雇用により、劣化してしまった生態系の修復を進め、自然体験のためのフィールドとして再生する。

→ フィールドはエコツーリズムや学校教育旅行等に活用し、国立公園の活性化と観光振興に資する。

→ 住民の参加で、オンザジョブトレーニングによるスキルアップが期待できる。

生態系管理によるフィールド再生(鳥獣・外来種対策、希少種の保全、自然植生の回復等) <技術者: 樹木医、獣医師、造園施工管理士等>



薬剤注入による外来樹木の駆除作業 <樹木医等>



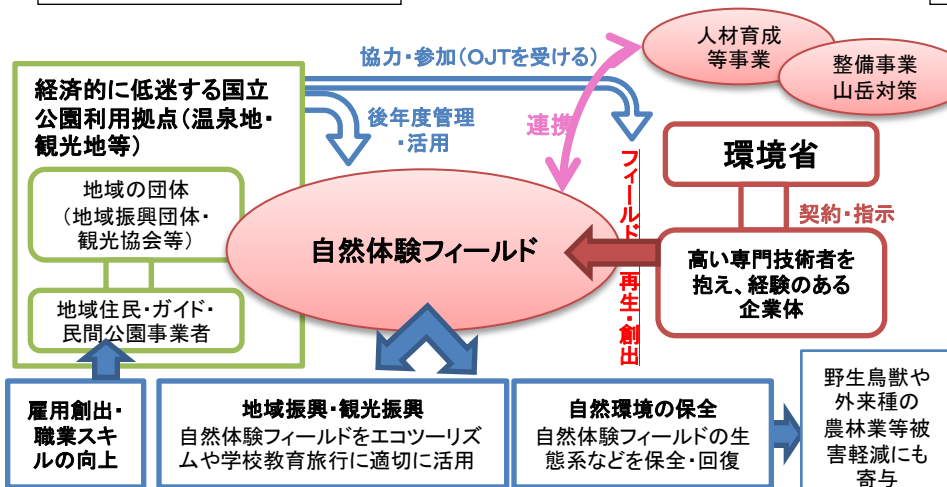
イノシシの駆除作業<ハンター・獣医師等>



むしろ設置による植生復元作業 <造園施工管理士等>



拡散危険度を踏まえ、植生管理しながらの外来雑草の駆除<植物学者等>



荒れた登山道が拡幅するのを防ぐ。(簡易な施設の補修、維持管理) <近自然工法等土木技術者>



適切なフィールド利用の検討・普及・システム作り(学校教育旅行、外国人対応等) <旅行関係者等>

③ 山岳環境保全対策事業



↑未処理で放流したし尿とペーパーの流れ(富士山:H12年頃、改善前)

↑未処理のまま浸透・放流しているトイレ(石鎚山)

- 山岳地の自然は、国民全体で守るべきもの。
- 垂れ流しトイレや野外排泄が、山岳地域の良好な生態系に影響を与えている。
- 「山ガール」や外国人登山客が増加する中、「観光立国」の面からも「臭い」「汚い」は早急に排除すべき。
- 民間山小屋は、国や県に代わって公衆トイレや医療施設等、公共的機能を発揮しており、これを活用することにより、公共事業費など国費の縮減が可能。

新たな「山岳環境保全対策」

山域ごとに総合的な取組の推進

★総合的山岳環境保全対策事業

山域毎の特性に応じ、総合的な山岳環境保全対策について計画策定し、推進する。

山小屋のし尿対策の推進

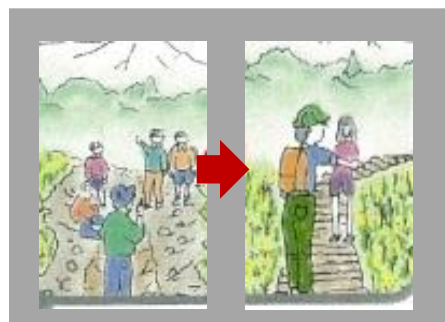
★山岳環境保全支援事業

し尿処理の改善にインセンティブの働かない未改善の民間山小屋を早期に改善するため、環境配慮型トイレ導入等を時限的・限定的に補助

④ エコツーリズム基盤施設整備事業

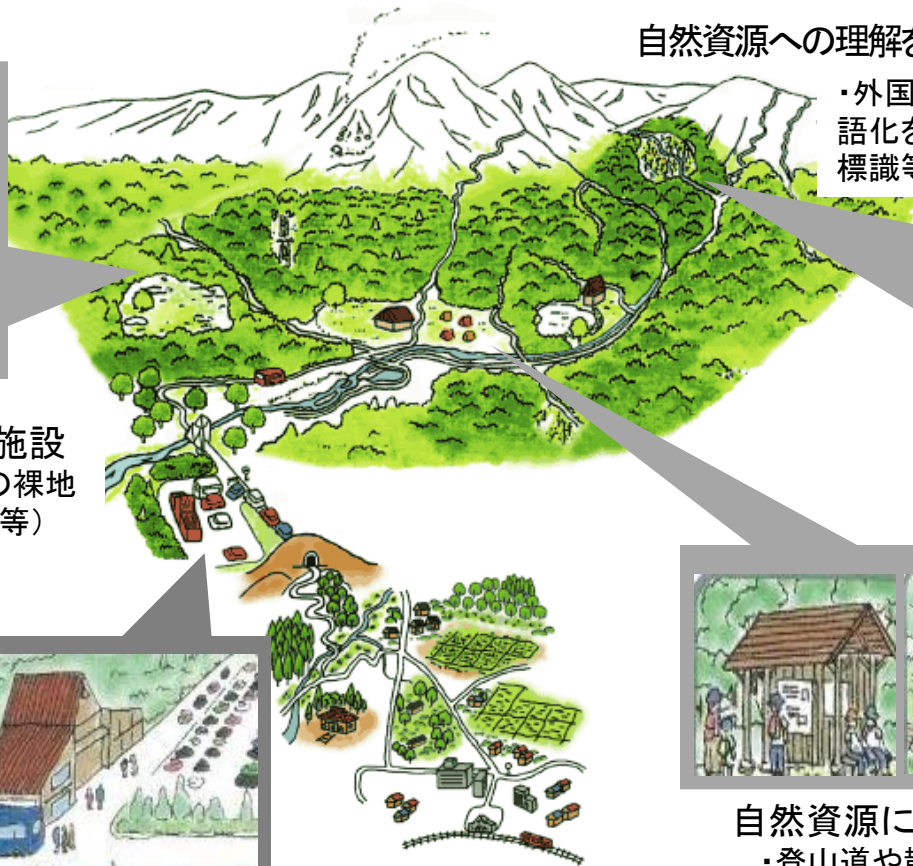
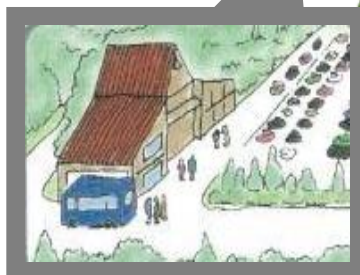
シカの食害やオーバーユース等により劣化した自然の回復、エコツーリズムプログラムに沿った基盤施設の整備。

○整備概要



自然資源の保全に資する施設
・オーバーユース対策としての裸地化防止対策(植生復元事業等)

エコツーリズムセンター
・ガイダンスやルールの周知を行う拠点施設
・利用者に自然資源に関する各種情報を提供



自然資源への理解を深め、ふれあうための施設

・外国人旅行者に配慮した多言語化を用いた総合案内板、誘導標識等



自然資源にふれあう基盤となる施設

・登山道や散策道の整備
・休憩ができる四阿等の整備